

# 木造 三重塔 修復

山口市

国指定重要美術品

彫刻・修復



\*参考画像です。

修理と模刻：修理については使用素材と程度の要求内容が「言わんとしていることは分かるが、こういう場合にはあまりないのでは」という感じだったので、作業しづらかった。模刻は基本的に直線で構成されているが、大らかな部分があるため、雰囲気合わせるのに苦労。鎖や風鐸に至るまで全てハンドメイド。

余田福楽寺旧蔵の工芸品。福楽寺は、平安末期の与田保野寺末坊一八坊のうち下野寺の一坊であった福楽坊である。この木造三重小塔は、室町期に与田上野寺の一坊であった南之坊にあったが、後に福楽坊に伝わった。それが山口市に移り、現在に至っている。

塔の総高 44.1 c m、台底は 14.1 c m 平方、台の高さ 5.7 c m、九輪の高さ 15 c m の小塔で、もとは九輪の頂上から四条の鎖が屋蓋の四隅に張ってあったが、今はそれが失われている。柱は朱、壁面は白亜で塗られていた形跡が認められ、基壇底面につぎの墨書銘がある。

応永十三歳次丙戌（応永13は1406年）

作者伯耆十万寺密乗坊慶海 生年68才

KYOTO KAGAKU CO.,LTD  
Preservation and Restoration of Cultural Property

tel.075-605-2510  
fax 075-605-2519  
rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

<http://www.kyotokagaku.com/jp>  
[rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp](mailto:rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp)